

学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2023年	
受賞タイトル	奨励賞	
区分	Ⅱ. 生活ディスプレイデザイン	
フリガナ	タノオキ	
制作者名	太古尚稀	
フリガナ	トウキョウデンキダイガク・ミライカガクブ・ケンチクガクカ	
卒業時の大学 学部・学科	東京電機大学・未来科学部・建築学科	
フリガナ	ヒノサシ	職名
推薦者名	日野雅司	准教授
フリガナ	トシノコッカク	
作品名	都市の骨核	
概要	 <p>高度経済成長により全国で多くの庁舎が建設されてから約60年が経過し、老朽化した庁舎の建て替え需要が急増している。また、令和2年、総務省によって自治体DX化推進計画が策定されたことなどから、庁舎の在り方は転換期を迎えている。DX化の進行により行政と市民の距離はオンライン上ではゼロになり業務の効率は飛躍的に上がるが、今まで直接的に関わってきた行政と市民の距離は離れていき、関係性は希薄化する一方である。</p>	

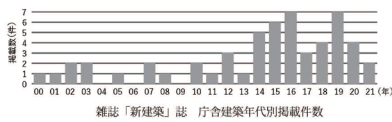
制作者名	太古尚稀
作品名	都市の骨核

【コンセプト解説】

I. 背景 - 転換期を迎えた庁舎 -

庁舎の現在

昭和40年頃、高度経済成長による社会変化に対応するために全国で多くの庁舎が建設された。
それから約60年が経過し、老朽化した庁舎の建て替え需要が急増し、全国の自治体で庁舎のプロポーザルが積極的に行われている。



庁舎を取り巻く環境の変化

令和2年、総務省によって自治体DX推進計画が策定された。
デジタル技術を活用して市民の利便性を向上させると共に業務効率化を図ることが求められ、庁舎に求められる機能や空間が変化している。



庁舎の在り方は転換期にある

庁舎空間を再考し、未来に向けた新しい庁舎を提案する

II. 課題 -DX化による問題点-

DX化の進行により手続きのスピードが上がり、オンライン上での行政と市民のキョリはゼロになることで、便宜性や作業効率は飛躍的に上がる。
一方で庁舎に行くことで直接的に関わっていた市民と行政の距離は遠

希薄化する行政と市民の関係

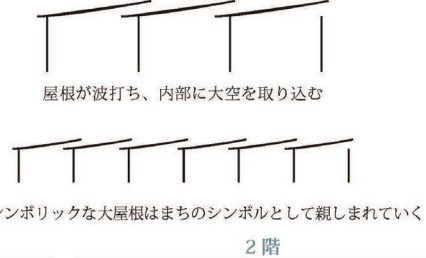
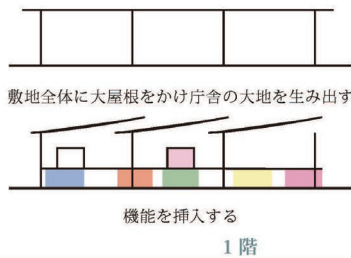


市民と行政の距離が遠くなっていくことで、直接市民の声を取り入れる機会は減少していく。未来へ向けた改革には市民の生活や活動を目的に、理解している必要がある。

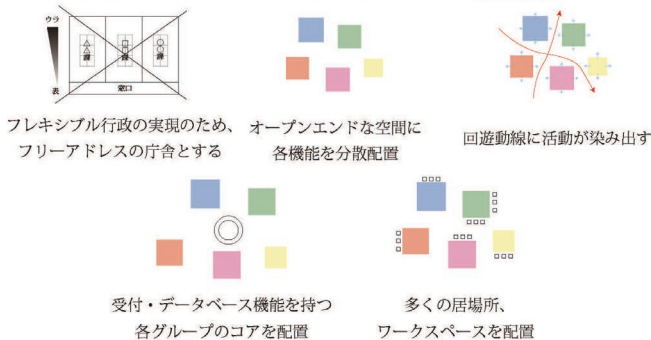
III. 設計 -都市の骨核-

全体構成

一つ屋根の下で、希薄化する行政と市民の関係を建築が繋ぎ合わせる



大屋根の下に広がる裏表のないオープンな協働空間



セキュリティが確保されたワークスペース

